

預かり保育について

1 基本的な考え

近年少子化の進行や女性の社会進出の増加など社会の保育ニーズの多様化に伴い、幼稚園における預かり保育の期待が高まっていることから、地域の実情に応じて、子供を持つ親が安心して働ける環境づくりが必要である。したがって、幼稚園における預かり保育は、ただ幼稚園に預ければよい、人に任せておけばよいのではなく子供の立場に立って、幼稚園・家庭・行政が常に連携を密にし、幼児期にふさわしい生活を保障し子供の幸せを願い子供のためのものでなければならない。

(1) 預かり保育の充実

- ① 園長の管理下において、幼稚園の教育課程外の教育活動として希望者を対象に実施する。
- ② 家庭的な雰囲気の中で、幼児が落ち着いてゆったりと十分遊べる時間の確保や環境の整備に努める。
- ③ 担当者同士の十分な連携を図り、学級から預かり保育への、スムーズな移行に配慮する。
- ④ 地域の公共施設を見学したり、地域とのかかわりを積極的に推進する。
- ⑤ 幼児の負担を考慮し、落ち着いてゆったりとした気持ちで遊べる環境を工夫する。

(2) 安全指導

- ① 保育時間が長くなるため、子供の負担にならないよう健康、安全面に配慮する。
- ② 動的、静的な活動のバランスを考慮し、特に戸外遊びの時は安全面に配慮する。
- ③ 怪我や災害発生時は、職員間で素早く対応し、連携がとれるようにする。
- ④ 集団で避難ができるよう火災避難訓練を実施する。

(3) 家庭との連携

- ① 預かり保育の方針、教育活動、日課表など預かり保育について保護者会を持ち幼稚園家庭との連携を密にする。
- ② 教師と保護者とのコミュニケーションを密にする。
- ③ 保護者会や行事などを通して、父母の意見を聞き幼稚園運営に生かしていく。

(4) 地域との連携

- ① 地域の公共施設を活用する。
- ② いろいろな人との交流の輪を広げて触れ合いを深める。
- ③ 時間的な配慮をし、じっくりと取り組める体験活動の充実に努める。(園外保育など)